



まずはここから！使ってみて分かった！！
 仙台市立北中山小学校

私たちのクロムブック実践チャレンジ
 岸根智也 菅原丹杜 三浦昂也



1. はじめに

仙台市立小中学校では、昨年度より1人1台のChromebookが導入され、本校においても各学級で、様々な活用がなされてきた。しかし、各担任の関心や知識、技能の違いなどから、活用の足並みにはばらつきがある状況であった。

ChromebookはChromeOSが搭載されており、Googleが提供するGoogle Workspace for Educationのサービスの利用に特化している。様々なソフトウェアのインストールも可能であるが、各サービスをどのクラスでも活用できるようにすることが、まず本校にとって必要だと考えた。

それは、より多くの教員が、Googleの各サービスへの理解を深め、活用の方法を知ることで、Chromebookを使用した新たな活用例の提案や授業改善につながることが期待されるからである。

本発表は、今年度、本校でのGoogleサービスの活用例を示すとともに、そこから見えるメリット・デメリットを整理し、来年度以降のより計画的な活用と幅広い実践につなげることを目的とする。

2. 今年度の実践について

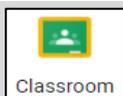
今年度、本校で行った実践は以下のとおりである。学年やクラスごとに工夫し、多種多様な実践を行った。

(下記のQRコード参照)



本発表では、その中からピックアップして実践内容と成果、注意点等について紹介する。

3. 実践の報告 (○：成果, ●：注意点)



【Classroomの活用】

[実践事例]

(1) 調べ学習での活用

国語、社会、総合などの調べ学習の際に、クラスや教科のclassroomを作り、そこに児童が調べるインタ

ーネットのサイト(URL)を貼り付け、簡易的なリンク集を作成する。

○児童に検索するスキルが身に付いていない場合でも、調べることができる。

○探す時間が省け、児童の活動時間を確保できる。

○意図しないページを参照することを防止できる。

●教師が用意したページからだけ調べさせることになるので、児童が調べてまとめる内容が似たものになりやすい。

●検索エンジンを使って、検索するスキルを身に付ける必要もある。

(2) 学習アンケートとしての活用

子供たちの実態調査(アンケート)を授業タブを使用して行う。子供のレディネスをチェックしたり、事前の既知事項を確認したり、学習の振り返りでアンケートを取ったりする。

○気軽に簡単にアンケートができ、クラス全体の回答と集計が容易に把握できる。

●アンケートの項目の評価とその蓄積が必要。



【meetの活用】

[実践事例]

(1) オンライン学習に備えて

オンライン学習に備えて各教室で練習をした。

○一人一人の顔を確認しながら、一堂に会さずともコミュニケーションがとれる。

○児童と担任とのつながりを確保できるため、不登校傾向の児童にも有効である。

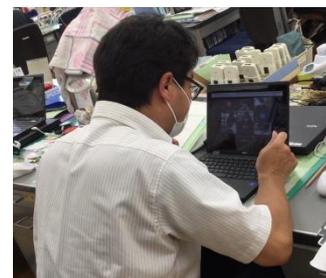
●クラスでの使用ではマイクは入れられない。

●回線状況等による不測の事態の対応が難しい。

(2) 小中連携の合同会議で活用

中学校区学びの小中連携事業において、3校の合同会議を行った。

○70名ほどの大人数で、学校間での会議をすることが可能である。



- 分科会を設定し、全体会から振り分けることもできる。
- ドキュメントやスプレッドシートで、参加者がリアルタイムに書き込みをする体験ができた。
- 話し合いの手順や流れ、ルール等をしっかり決め周知しておく必要がある。



【Forms の活用】

[実践事例]

(1) 単元の復習のツールとして

各教科の単元の「まとめ」や「たしかめ」のために、Forms を使用したミニテストを行った。



- 配布時間の指定など、自動化できる。
- 子どもをつまずきに応じて指導に生かす。
- 回答確認に合わせて、解説に動画や画像を付属し、時確認ができる。
- 問題と解説を作成し、動画の視聴方法を事前に指導する必要がある。

(2) 地域での学習ツールとして

5年総合の学習では、地域の防災意識調査として児童が考えた質問をアンケート化し、携帯電話等で回答ができるように QR コードで各家庭に配った。



- 集計がしやすくグラフにも整理されるため、どの児童にも結果が把握しやすい。
- コロナ禍で外部と直接関わるのが難しくなった状況で、地域の人を考えを知るのに役に立つ。
- セキュリティの問題で、回答者を「仙台市教育委員会(C) と信頼できる組織のユーザーに限定する」にして作成してしまうと、保護者が回答する際にブロックされてしまう。



【Jamboard の活用】

[実践事例]

(1) Classroom の課題での活用 (3年)

Jamboard への書き込みを、課題として出した。

○課題の提出に至らなくても、配付した担任は、取組みの進捗を確認することができ、児童の頑張りを見取ることができた。

(2) 理科での活用 (4年)

「雨水のゆくえ」で、雨の日の校庭の写真を、Jamboard の複数ページに分けて張り付け、ファイルを作成し、児童を閲覧可能にした。



- その日の天気等の状況に関わらず、観察を実施することができた。
- 自分が気になった写真、よく観察したいと思う写真を見ることに、多くの時間を割くことができ、観察のペースを各自で調整することができた。
- 担任のアカウントから書き込みを行えば、すぐに学級全体で共有ができた。
- 観察は、準備した写真の内容にとどまるため、写真の選択には配慮が必要である。

(3) 家庭科での活用 (5年)

家庭内の仕事を付箋に書き込み、「衣・食・住・その他」の項目で分類して、貼り付けて、5人のグループで共有した。



- Chromebook を持ち帰り、家族から教えてもらった仕事を、付箋にメモとして残すとともに、同時に項目分けをすることもでき、授業外で活動を進めることができた。
- 5人1グループで共有したことで、互いのボードを見ながらお互いの進捗を確認したり、調べたことを比較したりすることができた。

4. おわりに

本校では、若い教員が中心となり、試行錯誤しながら Chromebook の活用には取り組んできた。本発表が皆様の参考になることがあれば幸いである。

本校では、今後、以下のことをすすめ、Chromebook 活用を推進していきたいと考えている。

- ・これまでに取り組んできた実践事例をまとめ、教員間で共有する。
- ・できること、できたこと、できなかったこと、したことを教員間で出し合い、共有しよりよい活用を目指す。
- ・教員へ Chromebook を配当し、すぐに触って試す状況を整備する。
- ・他のサービスの情報収集と現在のサービス（現 Chromebook）のできることを比較する。
- ・他校、他自治体での実践事例の情報収集を共有する。
- ・定期的な校内研修を実施する。
- ・活用や研修を計画的に行えるようにする。